

取組目標 1	稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする		
担当課	環境政策課、農業振興課、定住産業課、町民課	総合評価平均	76.6
前年度の取組の成果と課題	<p>【稼げる地域づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●坂根の舞茸直売所の駐車場不足が問題となっていたが、令和4年度にトイレと大型駐車場を整備し、安全な集客が可能となった。また、大型バスでのツアーも回復してきている。 ●令和4年度から制度改正して有機エゴマ作付奨励事業を実施し、エゴマ農家を支援している。今後は、エゴマの栽培面積拡大と開発農地の活用を図り、ブランド化と収穫量を増やしていく必要がある。 ●米余りによって米価が下落する中、仁多米の堆肥施用を推進するほか、減農薬・減化学肥料により特別栽培米の推進を図るため、奥出雲仁多米（株）においてブランド加算金の活用を行い、農業者の所得向上、営農継続につながった。 ●奥出雲仁多米株が販売する「出雲國仁多米」の価格とブランド力の保持により、農業者の生産意欲の持続、営農継続につながっている。 ●「日本農業遺産のまち 奥出雲町」として情報発信を行い、農業遺産ロゴマークによる農産物のPRに取り組んだ。80件のロゴマーク登録申請があり、農産物のブランド化にも寄与できた。 ●担い手不足を解消していくため、認定農業者農地集積支援事業により集積補助金を交付してきたが、更に効果的な施策、事業を検討していく必要がある。 ●奥出雲の農産品をふるさと納税ポータルサイトで全国に広くPRし、ブランド推進を図ることができたが、人口の減少や自治体間の返礼品競争等により、ふるさと納税額は減少傾向にあり、製品の開発や掘り起こしが必要。 ●人口減少による需要の減少、近隣地域の大型店舗への購買客流出などにより、町内小売店の販売額の減少が続いており、小規模事業者支援が必要となっている。 ●町内の事業所や誘致企業の人材確保のため、奥サポにおいて求人情報を提供している。奥サポでは情報提供からマッチングし、就職に結びつく実績が15件あった。 ●地域活性化企業人制度により、令和4年10月に株ぐるなびと連携協定を締結し、社員1名が毎月奥出雲町でお土産品開発、奥出雲産品の販路拡大等を中心に業務を行っている。 <p>【安心して働ける環境づくりによる担い手確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町内には、農事組合法人が21組織あり、多くの組織が高齢化を危惧している。担い手不足を解消するため、近年は作業省力化を図るスマート機器、ドローンなどの機械を導入する傾向にある。 ●就農者を確保するため、大阪で開催した就農フェアに参加し、奥出雲町をPRした。また、認定農業者への移行相談を約10件行ったほか、ぶどう栽培を目指す農家の就農を支援することができた。 ●農業を始めたい方や農業を志望する地域おこし協力隊の状況を把握するため、県の普及員、JA担い手担当者等と毎月定期的に情報共有を図っている。就農者へのアドバイスに有益なため、引き続き実施していく。 ●農家の担い手不足に対応するため、コントラクターの利用推進し、令和4年度は26件の利用を支援することができた。 ●町内誘致企業は、開発系エンジニアの確保が課題となっており、松江高専等と連携協定を締結し、インターンシップを支援することにより、エンジニアの確保を行う必要がある。 ●医療、福祉、介護などの生活サービスや建設業などの社会インフラの維持管理に不可欠な業種の担い手が不足しており、補助金等の制度創設による担い手確保の支援が必要である。 		
	<p>【稼げる地域づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●舞茸奥出雲の坂根工場の見学と舞茸収穫体験のパッケージを旅行会社に営業し、更なる顧客の増加を図る。 ●町内製材所等への木材出荷量を増やしていくため、森林環境譲与税等を活用し、建材や木のおもちゃなどによる木材利用を図る。 ●木材の出荷量を増加し、林業の推進を図るため、林業専用道の整備推進を行っていく。 ●有機エゴマの作付を奨励し、水田転作、開発農地の遊休農地解消を含めてエゴマ生産の拡大を図っていく。 ●特別栽培米の生産を推進し、消費者に信頼される良食味の米生産を行うとともに、循環型農業の実践により、今後も仁多米のブランド価値を高めていく。 ●農業の担い手不足を解消するため、圃場の再整備、機械化、農事組合法人の構築など、多方面での支援事業を進めていく。 		

理念	基本目標	基本目標評価(平均点)	取組	担当課評価	施策担当課(R5.4時点)			
1	子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり	80.0	⑤ここに住みたい、住んでよかったと思えるまち	(1)子育て世代の「住みたい」を叶える環境づくり	B	定住産業課 町民課		
			(2)奥出雲を愛する関係人口づくり	C	政策企画課 定住産業課			
2	活力ある産業の振興	100.0	⑥自然と共生した資源循環型産業があるまち(1)	(3)情報発信による移住定住の促進	A	定住産業課 総務課		
				(4)関係人口の拡大と地域間交流の促進	A	政策企画課		
				(5)棚田を活用した農村振興	B	農業振興課		
				(1)農業の生産性向上と新技術の導入	A	農業振興課		
		66.7	⑥自然と共生した資源循環型産業があるまち(2)	(2)農地の整備・維持・管理・保全	A	農業振興課 建設課		
				(3)奥出雲和牛等の生産基盤の維持拡大	A	農業振興課		
		100.0	⑦奥出雲ブランドが輝くまち	(4)耕畜連携による資源循環型農業の推進	A			
				(1)山林の保全・基盤整備と木材利用の促進	D	環境政策課		
				(2)山林の多面的利用	A			
				(3)森林環境の保全・創造	A			
43.8	⑧活力ある産業があるまち	(1)農畜産物のブランディング	A	農業振興課				
		(2)奥出雲の強みを活かした特色ある生産と販売	A					
		(3)林産物のブランド化	A	環境政策課				
		(4)地域資源や伝統技術を活かしたブランディング	A	政策企画課 定住産業課				
87.5	⑨働きやすさ・働きがいがあるまち	(5)安心・安全で売れる農産物の生産	A	農業振興課				
		(1)商工事業者への経営支援	D	定住産業課				
		(2)地域資源を活用した産業の創出	D					
		(3)起業支援の促進	A					
91.7	⑩世界中に魅力が広がるまち	(4)誘致企業の支援・新たな働き方の推進	B					
		(1)地域産業の担い手育成・確保、町内就職の推進	B	定住産業課 農業振興課				
		(2)営農組織の強化と担い手の育成	A	農業振興課				
		(3)林業の担い手と就業者の確保	A	環境政策課				
-	計画の実現にむけて	70.0	⑪官民協働による持続可能なまちづくり	(4)人材不足業種への人材確保支援	B	健康福祉課、 建設課、定住産業課		
				50.0	⑫スマートタウン構想・自治体DXの推進	(1)観光情報発信・プロモーションの強化	A	定住産業課
						(2)観光資源の魅力化	B	
		(3)受入れ体制の充実	A					
		70.0	⑫スマートタウン構想・自治体DXの推進	(1)地方創生SDGsの推進	D	環境政策課		
				(2)民間活力の導入	C	政策企画課		
				(3)住民と協働のまちづくり	A	総務課		
				(4)住民に開かれた行政運営	A	総務課		
				(5)効果的な行政運営	A	財政課		
				(1)行政サービスの向上と効率化	C	総務課、町民課		
(2)情報通信基盤の整備	C			総務課				
(3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進	A							
(3)情報サービスの充実	D							

各種意見・評価

評価委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・エゴマ栽培は、日本一のときもあれば不調のときもあり、何を基準に奨励するか生産者や専門家の意見を聞く必要がある。 ・東京で島根物産PRイベントに参加し、奥出雲町の観光PRをしてきた。会場の近くに東京工業大学があり、町から持参した玉鋼を東京工業大学の大学生が興味をもって見てくれた。観光等の施策についても、全世代に宣伝するより、ターゲットを絞った戦略の宣伝をしていくと良いと思われる。

今後の
取組方針

- 国営開発農地は、個別協定者による耕作管理により農用地面積の減少を食い止める施策を推進する。また、畜産利用も検討していく。
 - 畜産農家には、引き続き肥料の高騰対策を実施していく。
 - ふるさと納税の額を増やしていくため、農産品や特産品の開発、掘り起こしを行いPRを続けて行く。また、ふるさと納税ポータルサイトの見直しと専門業者によるアウトソーシングによる運営を実施していく。
 - 商工団体や金融機関と連携し、小規模事業者の安定的・持続的な経営基盤の確保を支援する。また、商工会が策定された経営発達支援計画に基づき、伴走型支援が円滑に推進されるよう支援し、経営改善をはじめオンライン販売や地域電子通貨の導入などにより地域内経済の循環を図る。
 - 新規の起業・創業を目指す方に対する起業塾や相談会等を実施するほか、町内の遊休施設・用地への新たな企業誘致を進めていく。
 - 日本遺産及び日本農業遺産登録をシンボルとして、仁多米等の農産物のブランド化、農泊及び観光受入れ業者の育成・支援を行い、交流人口の増加と農業の維持発展に務める。
 - 令和5年度に作成する新たな観光計画をもとに魅力ある観光プロモーションを実施する。また、インバウンド需要を取り込むためのプロモーションにもあわせて取り組む。
 - 観光需要が回復し、大きくなっていく中で、観光客の旅のニーズに沿ったツアー展開を図り、併せて観光ツアーガイド養成に力を入れていく。
 - 令和4年度から奥出雲町の新たなお土産品となる商品開発を進めており、秋ごろにリリースできるようにする。また、町の地域資源（人材、特産品、ストーリー）を活かした商品開発を行い、奥出雲のブランディングに取り組む。
- 【安心して働ける環境づくりによる担い手確保】**
- 林業従事者確保のため、地域おこし協力隊制度を活用し、フォレストワーカー（林業従事者）の募集を行う。
 - 高齢化が進む農事組合法人や営農組合には、持続可能な法人経営を目指し、スマート農業の導入やコントラクターの推進していく。農業機械を導入して基幹作業の負担を軽減するため、水管理や乾燥調整の農作業などにスマート機器の活用を図る。
 - 新規就農者を確保策として、令和5年度は就農パッケージやJA等の他団体の事業に補助金等を上乗せして支援する事業を検討する。
 - 企業の安定的・継続的な発展に必要な人材の確保や従業員のスキル向上などへの取組に対し、関係機関と連携して支援する。
 - 若者や女性の働く場を確保できるよう、製造業やIT関係等の企業誘致により雇用の創出を図るとともに、連携協定を締結した松江高専等からのインターンシップの受け入れを推進するにより、誘致企業の人材の不足に対応していく。
 - 起業希望者に対する相談対応や起業に必要なスキル、知識の習得支援、起業後のフォローなど、きめ細かい支援を行う。
 - 町内企業の労働力確保と再就職者を支援するため、町内企業に再就職される方に対し、10万円の緊急就職支援奨励金を検討する。
- 農業や林業など、町内に豊富に賦存する地域資源を活用して、閑散期に他の仕事に従事する半農半Xなど、新しい雇用機会が創出されるよう環境整備に努める。
 - 事業承継においては、第3者承継など円滑に進むよう、商工会や島根県事業承継・引継ぎ支援センター等と連携して支援する。
 - UIターン者や若い世代の定住を促進するため、都市部で開催されるUIターン相談会等での求人情報の提供やまちのPR、無料職業紹介所、ハローワーク等を利用した求職者へのマッチング支援を行う。
 - 若年層向けの企業見学会や企業紹介チラシなどにより、町内企業に理解を深める機会を設け、「奥出雲町で就職する」ことが選択肢となるよう各種情報を提供する。
 - 連携協定を締結した松江高専と協力して、町内の小学生を対象としたIT教室を開催し、理科教育、人材育成を行う。
 - 地域人材不足に対応するため、特定職種緊急人材確保事業により補助金を交付し、医療・介護職、建設業職の人材を確保する。

取組目標2	都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる		
担当課	定住産業課、教育魅力課、政策企画課	総合評価平均	78.4
前年度の取組の成果と課題	<p>【移住・定住の促進】</p> <p>●昨年度までは、新型コロナウイルスの影響もあり、対面でPRを行う移住定住フェアや実際に奥出雲町を訪問し、就職先や空き家の見学等を行うお試し暮らしなどもしにくい状況が続いた。</p> <p>【若者の定着・Uターン】</p> <p>●高校生の卒業前に、Uターン情報、求人情報を発信するサイトにつながる「しまね学生登録」のPRを行い、多くの登録者を獲得できた。今後、大学等卒業後のUターンにつながる情報発信をしていく必要がある</p> <p>●コロナ禍の人流抑制などにより、Uターンを増やしていくことが難しかった。今後、2人以上の世帯、子育て世帯などのUターンを増やしていくため、子育て、住宅整備、雇用の確保に係る施策等を並行して進めていく必要がある。また、それぞれの施策をSNS等を通じて発信し、住みたいまちとして選んでもらえるようPRしていく。</p> <p>【関係人口の創出・拡大】</p> <p>●昨年度までは、新型コロナウイルスの終息の見通しの持てない時期が長く続き、観光面では、ピフォーアフターコロナのように、積極的推進が難しい現状があった一方で、観光協会と連携してマイクロツーリズムを中心とした、新しい旅のスタイルを取り入れ誘客に努めた。</p> <p>●関係人口創出プロジェクトについては、関係案内人の育成とオンラインイベント・現地ツアーの実施、モデル地区を2地区（三沢・八川）選定し、地域と関係人口の協働プロジェクトのアクションプランを作成した。</p> <p>●関係案内人育成については、学生から実践者まで多様な層に参加していただくことができた。モデル地区の2地区においては「かわりしろ」を見出していただくことができた。今後、アクションプランを実施していくことと、関係人口の可視化が課題となる。</p>		
	今後の取組方針	<p>【移住・定住の促進】</p> <p>●豊かな自然を享受しながら働く、地域の絆の中で子育てを行うなど奥出雲町の強みを活かすことで、働き方やライフスタイルにおける若者の希望とのマッチングを図り、お試し暮らし体験などで奥出雲町に来ていただくきっかけをつくり、Uターンにつなげる。</p> <p>●お試し暮らし体験を積極的に受け入れる体制をソフト・ハード両面で整備するとともに、定住支援サイトをリニューアルし、移住希望者が奥出雲の暮らしをイメージできるよう住まいや子育て、仕事等の情報を一元化してSNSやホームページで発信していく。</p> <p>【若者の定着・Uターン】</p> <p>●子育て世代向けの住宅用地等の整備を行い「奥出雲に住みたい」を叶える住環境をつくっていく。</p> <p>●若者世帯、子育て世帯等の定着に向け、令和5年度以降に旧福原団地用地を敷地造成して分譲する（令和5年度測量設計、令和6年度造成、分譲）。</p> <p>●町内企業と連携し、島根県立大学や松江高等の生徒、奥出雲企業に関心をもってもらえる学生のインターンシップの受け入れ体制を構築していく。</p> <p>●進学で一時的に転出しても、やがて奥出雲町にUターンし、地域の未来を支える人材を育成するために、学校教育を通じて子どもが地域と深く関われる学びの体制をつくり、地域への愛着やシビックプライド（地域貢献意識）の醸成を図る。</p> <p>●町内の小学校、中学校において、ふるさと教育を実施し、まちの課題解決やまちづくりについて考え、授業等で発表する場を作っている。将来の奥出雲町について考える場をつくり、地域を支える人材づくりにつながるよう取り組みを続けていく。</p> <p>【関係人口の創出・拡大】</p> <p>●関係人口セミナーを通して奥出雲ファンを増やし、各地区において既存の活動から関係人口づくりができる活動をピックアップし、各地区（小さな拠点づくり組織等）が主体となり実践をする。また、関係人口（奥出雲ファン）の可視化ができるシステムとして奥出雲町応援サポーター制度（仮）構築していく。</p> <p>●奥出雲町応援サポーター（仮）に奥出雲町の受け入れ可能な「かわりしろ」の情報を定期的に提供し、奥出雲町に関わっていただくことで、奥出雲のヒト・コト・モノを知っていただき、最終的には、移住・定住につなげる。</p>	

理念	基本目標	基本目標評価(平均点)	取組	担当課評価	施策担当課(R5.4時点)			
1	子育て・教育の充実と奥出雲を担うづくり	83.3	②魅力的な学びの場があるまち	(1)小学校再編と学校運営(支援)体制の充実	A	教育魅力課		
			80.0	④大人も子どもも成長できるまち	(2)奥出雲ならではの特色ある教育		C	
					(3)幼稚園から高校・専修学校の魅力化		A	
(1)地域でのふるさと教育の拡充	A	教育魅力課						
80.0	⑤ここに住みたい、住んでよかったと思えるまち		(2)奥出雲を愛する多様な人づくり	A				
			(3)社会教育における学びの充実	A				
		(4)人権・同和教育の推進	A	町民課				
2	活力ある産業の振興	87.5	⑨働きやすさ・働きがいがあるまち	(5)多文化共生・国際交流の推進	A	定住産業課		
				91.7	⑩世界中に魅力が広がるまち	(1)子育て世代の「住みたい」を叶える環境づくり	B	町民課
						(2)奥出雲を愛する関係人口づくり	C	政策企画課
(3)情報発信による移住定住の促進	A	定住産業課						
3	安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり	65.0	⑩持続可能なコミュニティがあるまち	(4)関係人口の拡大と地域間交流の促進	A	定住産業課		
				70.0	⑩官民協働による持続可能なまちづくり	(5)棚田を活用した農村振興	B	政策企画課
						(1)小さな拠点づくりの推進	A	政策企画課
(2)未来を担う人づくり	B	政策企画課						
-	計画の実現にむけて	50.0	⑩スマートタウン構想・自治体DXの推進	(3)観光情報発信・プロモーションの強化	A	政策企画課		
				70.0	⑩官民協働による持続可能なまちづくり	(2)観光資源の魅力化	B	定住産業課
						(3)受入れ体制の充実	A	定住産業課
(1)行政サービスの向上と効率化	C	総務課、町民課						
-	計画の実現にむけて	50.0	⑩スマートタウン構想・自治体DXの推進	(2)情報通信基盤の整備	C	総務課		
				70.0	⑩官民協働による持続可能なまちづくり		(3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進	A
							(3)情報サービスの充実	D

各種意見・評価

評価委員会
<p>・子どもの稲刈り体験では、未だに鎌を使って稲刈りをしていると間違った認識を与えてしまう。農業体験だけでなく第一次産業について、子どもたちには実態に合った仕事の体験をさせるべき。父母の参観日を設けて、親の仕事を見学させるのも良いと思う。</p> <p>・幼稚園では、ふるさと教育を取り入れているが、親のふるさとへの愛着など疑問を感じることもある。親もまちの良さを伝えていけるように、親がふるさとを学ぶ機会を作るべき。</p> <p>・Uターン者が3年程度で転出する事例を聞くと、残ってもらうためには、所得が得られる環境を作る必要がある。例えば、Uターンや地域おこし協力隊を募集するときは、そば職人など特定職種にターゲットを絞ることを検討して欲しい。</p> <p>・今後、人口減少が進むことは間違いなく、移住などにより国内で人の取り合いをしても意味がない。小規模の自治体でどこまでやっていけるのか、高齢化が進む中で何ができるのか話し合っていく必要がある。「少なくとも、今いる町の人口で何をするのか。」を考え方していくべきである。</p>

●地域おこし協力隊については、サポート体制を充実させ、伴走支援を行い定着率を高めていく。令和5年度は、7名募集予定で（起業(1)、林業(2)、高校(2)、地域づくり(2)）、短期間の体験制度である「お試し地域おこし協力隊制度」を導入し、活動内容等のミスマッチを防ぎ、安心して応募していただけるようにする。

【シティプロモーション、住民と協働のまちづくり】

●魅力発信講座等を開催し、奥出雲をお勧めする人、奥出雲に愛着を持つ人、奥出雲のために力を出したいという人を増やすとともに、誰もが奥出雲のコトを発信できるよう応援サポーター制度の仕組みを関係人口創出拡大プロジェクトとリンクさせて検討していき、新しい人の流れを作っていく。

●住民参画のまちづくりとして若い世代と行政が一体となり対話し、奥出雲の未来について考える「おくいずも未来会議」をスタートさせ、「おくいずも未来をつくるシティプロモーション事業」としてブランドメッセージづくりを行い、地域への愛着やシビックプライド（地域貢献意識）の醸成を図っていく。

●SNSの情報発信については、使い分けを行い、LINEについては、拡張ツールを使い、町外向けには住宅や求人の情報が届くようにし、奥出雲町に興味を持ってもらい、移住定住のきっかけをつくる。instagramについては、引き続き町の魅力を定期的に発信していき、デジタル奥出雲ファンの獲得を行っていく。

取組目標3	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
担当課	こども家庭支援課、町民課、健康福祉課	総合評価平均	75.3
前年度の取組の成果と課題	<p>【結婚・出産・子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●横田幼稚園に併設していたよこた子育て支援センターを休園している鳥上幼稚園に移転したことで、施設が広くなり子どもや保護者同士の交流が図られ、子育て環境の充実を図ることができた。 ●ファミリーサポート事業の利用を三成地区から町内全域に広げたことで、登録者数が増え20人程度増え、地域住民による子育て支援の機運につながった。 ●おくいずも子育て応援事業所の制度を見直し、事業所の取り組みを再確認することとしたことで、事業所では仕事と子育ての両立をサポートする意識が高まった。（18事業所登録） ●子育て世帯の経済的負担を軽減するため、令和5年1月から保育料の無償化を実施した。 ●子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点をこども家庭支援課に設置し、連携の取れた相談対応等を実施し、状況に応じた支援につなげることができた。 ●令和4年度から奥出雲病院において、産後ケアを開始し、産後のサポート体制を充実させた。 ●しまね縁結びセンターで実施している、しまねコンピューターマッチング「しまコ」の運用支援として、毎週木曜日を会員閲覧日とし、登録の推進を図っている。 ●結婚による女性の転出数の改善や町外からの転入を増やすため、保育料の無償化や出産・入学祝い金などの子育て施策、賃貸住宅の整備や住宅敷地の造成などの定住施策、子育て応援事業所等と連携し、多様な働き方ができるの職場創出等を進めていく必要がある。 		
	<p>【結婚・出産・子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て世帯の経済的負担を軽減するため、令和5年4月から18歳までの子どもの医療費等の無償化事業を実施した。 ●子どもや子育て世代に即した支援の取組みが図られるよう、令和5年度にニーズ調査を実施し、「子ども・子育て支援事業計画」に反映するほか、結婚・出産・子育て支援に係る福祉会、社会福祉協議会などの関係機関と情報共有し、施策につなげていく。 ●子育てに係る施策をSNS等を通じて町内外に発信し、子育てしやすい奥出雲を積極的にPRしていく。 ●出産により退職された女性等の就業をサポートするため、多様な働き方ができるIT企業等の誘致や子育て応援事業所等と連携した「雇用の場づくり」を進めていく。 ●予防接種の予診票と接種記録をデジタル化し、保護者が予防接種時期等を確認できる小児予防接種サービスDX事業を進めていく。 ●奥出雲病院では、引き続き産後ケアの取り組みを継続し、女性のサポートを行う。 ●「しまコ」のシステムがネットで閲覧できるようになり、より安心して手軽な出会いの場が整えられたことを受け、町内での積極的な利用を推進していく。 ●出会いの場づくりについては、女性の参加が少ないため、令和5年度に鳥根県や協定を締結した企業と連携し、婚活フェアを奥出雲町で開催し、町内の若者の出会いの場を創出する。 		
今後の取組方針			

理念	基本目標	基本目標評価(平均点)	取組	担当課評価	施策担当課(R5.4時点)
1	子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり	100.0	①子育てが幸せにできるまち	A	こども家庭支援課
			(1)地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	A	健康福祉課
			(2)安心して子育てができる支援体制の推進	A	こども家庭支援課
4	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	81.3	②だれもが健やかに人生をあゆむまち(1)	A	町民課
			(3)幸せな未来をつくる出会いづくり	A	
			(1)地域包括ケア充実のための体制充実と運営の効率化	C	健康福祉課
			(2)地域医療の維持・確保	B	
-	計画の実現にむけて	70.0	(3)奥出雲病院の体制充実	A	奥出雲病院
			(4)医療介護連携の推進	A	健康福祉課
			(1)地方創生SDGsの推進	D	環境政策課
			(2)民間活力の導入	C	政策企画課
			(3)住民と協働のまちづくり	A	総務課
		50.0	(4)住民に開かれた行政運営	A	総務課
			(5)効果的な行政運営	A	財政課
			(1)行政サービスの向上と効率化	C	総務課、町民課
			(2)情報通信基盤の整備	C	総務課
			(3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進	A	
(3)情報サービスの充実	D				

各種意見・評価

評価委員会
<p>・よこた子育て支援センターを休園中の鳥上幼稚園に移転し、利用者が増えている。SNS等によりPRできれば、町外からの利用者も増えるが、通常保育と並行してできないことが課題である。</p> <p>・子育て支援の取組として、イクボス宣言や子育て支援にかかる事業を積極的に取り入れていただいていることに感謝申し上げたい。一方で、男性の育児休暇の取得のあり方とその間の給与保障が取りざたされている。事業所としてはマンパワーの関係から調整しなければならない苦労もあるが、事業所内での男性の育児の参加について意識が変化してきている。総合計画に男性の育児参加や子育てに積極的に取り組んでいる事業所を評価する項目を追加して欲しい。</p> <p>・子どもの看護休暇など、子育てには、事業所の協力が必要である。従業員から休暇を申し出られたときに快く受け入れられるよう意識を待つことが事業所は大切であり、町でも意識の醸成に取り組んで欲しい。</p> <p>・不登校や特別な支援がいる子どもが安心して通えるブリスクール等が町内にないため、整備して欲しい。</p>

取組目標4	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる	
担当課	町民課、総務課、財政課、健康福祉課、福祉事務所、定住産業課、環境政策課、政策企画課	総合評価平均 80.6
前年度の取組の成果と課題	<p>【まちの機能充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公共施設等総合管理計画の改定に基づき、今後は公共施設の有効利用について検討して行く必要がある。 ●町の防災機能、意識等を向上していくため、自主防災組織の育成や防災士の育成が必要である。 ●令和4年度でレーザ計測による森林資源解析が完了し、効率的な森林整備を進めるため、森林組合とともに解析データを活用した施業の集約化・団地化に着手したが、関係するデータが膨大なため、数年の時間を要する見込みである。 ●新エネルギー設備導入促進事業は、令和4年度に10件（うち太陽光発電+蓄電池2件、太陽光発電+薪ストーブ1件、太陽光発電2件、蓄電池2件、薪ストーブ3件）の事業について、補助金を交付することができた。 ●公営住宅の老朽化と入居要件により、新規で入居できない問題がある。新婚世帯や子育て世帯の定住を促進するため、賃貸住宅や住宅用地の分譲等の住環境整備が求められている。 ●空き家バンク制度については、新規登録16件、利用者登録34件、交渉成立6件だった。売買物件より賃貸物件が希望される傾向にあり、賃貸物件の整備等が必要である。 ●定住推進住宅整備支援件数は、15件（うちUターン3件、町内12件）であったが、新婚世帯や子育て世帯のニーズに合った賃貸住宅の整備や住宅地の分譲などが必要である。 ●令和5年度からのコンビニ交付に向けて、自治体基盤クラウドシステムへの申込みなど準備を進めた。 <p>【個性あふれる地域形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍ではあったが、奥出雲町観光協会を中心に、マイクロツーリズムや体験コンテンツの造成など旅行者ニーズに合った誘客、農泊事業による実践者の掘り起こしなど、受入れ体制の推進を図った。 ●地域資源の活用については、令和4年10月に（株）ぐるなびと連携協定を締結し、奥出雲産品の販路拡大やお土産品などの商品開発を行った。 ●関係人口創出については、地元案内人の育成やオンラインイベント、現地ツアーを実施し、モデル地区を選定してアクションプランを作成した。学生など多様な世代に参加してもらえた。 ●横田高校男子ホッケー部による高校3冠の達成により、改めて町内外へ「ホッケーのまち 奥出雲町」をPRすることができた。 <p>【安心して暮らすことができるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、町内7地区で小さな拠点づくりの取組が進んでいる。令和4年度も「地域円卓会議」を4回開催して、各地区の実践活動の取組や成果、来期に取り組むこと等を確認できた。横田地区においては、「地域いきいき活動支援補助金」を活用し、防災研修会、高齢者サロンを実施され、機運が徐々に高まってきている。 ●TV電話によりコールセンターから希望する高齢者約180人に月2回程度の見守りコールを行っているが、機器の老朽化により、今後の保守対応が難しくなっている。 ●時間外の緊急患者受入について、「断らない医療」を奥出雲病院の方針に掲げ、利用者が大幅に増加した。今後も頼られ、かかりやすい医療機関を目指していく。 ●高齢者宅等の除雪支援事業は、自治会の協力により助け合い除雪を実施し、令和4年度は27件の利用があった。高齢者の除雪に対する要望は多いので、今後制度の見直しが必要である。 ●介護事業所へ就職するUターン者へ奨励金を交付し、町外から4名の人材確保につながった。 ●路線バスについては、乗務員不足が深刻化しており、路線の再編と収支改善が課題である。 ●JR木次線は、沿線をつくる木次線活用推進協議会により利用促進を進めており、路線の維持が急務となっている。 ●新婚世帯や子育て世帯が減少しているため、ニーズに合った賃貸住宅の整備や住宅地の分譲などが必要である。 ●自主防災組織を育成していくため、防災研修を13回実施し、地区組織ごとの防災に関する啓発にもつながっている。 ●機能別消防団員を22人確保できたが、人口減少や生活の多様化等から消防団員の確保が難しくなっている。 	
	<p>【まちの機能充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●遊休施設は、民間への貸借、払い下げも視野に入れターゲットを絞って具体的な活用案を提案していく。 ●自主防災組織の育成のため、自治会や小さな拠点等と連携し、研修会を継続して実施していく。また、防災士はその必要性の周知を図るとともに、継続して補助金の交付など資格取得の支援を行っていく。 	

理念	基本目標	基本目標評価(平均点)	取組	担当課評価	施策担当課(R5.4時点)
1	子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり	100.0	(1)地域でのふるさと教育の拡充	A	教育魅力課
			(2)奥出雲を愛する多様な人づくり	A	
			(3)社会教育における学びの充実	A	
(4)人権・同和教育の推進	A	町民課			
(5)多文化共生・国際交流の推進	A	政策企画課			
2	活力ある産業の振興	66.7	(1)多様な人材が活躍する仕組みづくり	A	町民課
			(2)すべての世代が笑顔で暮らせる社会づくり	A	教育魅力課
			(3)高齢者の活躍推進と社会参加の促進	B	福祉事務所
3	安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり	80.0	(1)子育て世代の「住みたい」を叶える環境づくり	B	定住産業課
			(2)奥出雲を愛する関係人口づくり	C	政策企画課
			(3)情報発信による移住定住の促進	A	定住産業課
4	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	80.0	(4)関係人口の拡大と地域間交流の促進	A	政策企画課
			(5)棚田を活用した農村振興	B	農業振興課
			(1)暮らしと命が守られるまち(1)	A	建設課
5	暮らしやすくて自然にやさしいまち	90.0	(2)水道道の改良、維持管理	A	水道課
			(3)下水道の改良、維持管理	A	総務課
			(4)公共施設の有効活用	D	
6	持続可能なコミュニティがあるまち	65.0	(5)公共施設の耐震化・防災拠点の整備	A	政策企画課
			(1)安定した交通手段の維持	A	
			(2)魅力ある住まいの確保	B	定住産業課
7	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	81.3	(3)空き家の利活用と老朽危険空き家の除去	B	町民課
			(4)循環型社会の構築	A	
			(5)新エネルギーの導入と脱炭素社会の実現	A	環境政策課
8	いきいきとした心と体をつくるまち	87.5	(1)小さな拠点づくりの推進	A	政策企画課
			(2)未来を担う人づくり	B	政策企画課
			(3)価値を生み出すまちづくり	A	定住産業課
9	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	93.8	(4)奥出雲町のブランドイメージの構築	D	政策企画課
			(5)官民協働の戦略的シティプロモーションの実施	C	総務課
			(1)地域包括ケア充実のための体制充実と運営の効率化	C	健康福祉課
10	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	81.3	(2)地域医療の維持・確保	B	奥出雲病院
			(3)奥出雲病院の体制充実	A	
			(4)医療介護連携の推進	A	健康福祉課
11	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	93.8	(1)障がい者福祉の充実	A	福祉事務所
			(2)生活困窮者の支援	A	健康福祉課
			(3)認知症支援対策の推進	B	福祉事務所
12	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	87.5	(4)高齢者福祉の充実	A	教育魅力課
			(1)文化の薫り高いまちづくりの推進	A	
			(2)奥出雲町遺産と国県指定文化財の保存と活用	A	教育魅力課
13	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	87.5	(3)既存施設を活用した図書館の整備	B	教育魅力課
			(4)いきいきライフを支える生涯スポーツの充実	B	
			(5)町民に夢と感動を与えるスポーツ振興	B	環境政策課
14	奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり	87.5	(6)景観形成の推進	A	環境政策課
			(1)地方創生SDGsの推進	D	

- 引き続き森林組合と連携し、レーザ計測による解析データを活用した施業の集約化・団地化を図り、各種データの一元化作業を進める。
- 新エネルギー設備導入促進事業奨励金の見直しを行い、補助額の拡充及び新規メニューの追加を行う。
- 子育て世帯やUIターン者の定住を促進するため、子育て世帯を対象とした賃貸住宅の整備や住宅用地の造成など、ライフステージに応じた住宅環境の整備施策を実施していく。公営住宅や住宅用地、空き家バンクなどの情報も一元化して発信していく。
- 引き続きこのまちで暮らしていけるよう、コンパクトシティに係る取り組みをすすめる。令和6年度に、奥出雲町立地適正化計画を策定し、都市計画区域を中心とした整備を図り、住みやすいまちづくりに取り組む。
- 移住定住者が「奥出雲町の暮らし」をイメージできるよう、子育て世帯、田舎暮らしに関心を寄せる若者層に向け、移住に関する情報を発信する。（令和5年度 移住定住支援サイト DEEP Town Okuizumo」の見直しを実施）

【個性あふれる地域形成】

- 令和5年度に奥出雲町観光振興計画を策定し、魅力ある観光コンテンツ及びサステナブルな農村社会を活かした資源循環型の町のPRによる旅行商品の造成を進める（日本遺産、農業遺産）。また、ツアーガイド体制の強化やガイド養成による町内案内ガイドの育成を図る。
- 令和5年度から子どもたちのまちづくりへのチャレンジを応援するため、未来に輝け！まちづくりチャレンジ事業を創設する。
- 町の課題解決、まちづくりなど、奥出雲町ならではのふるさと教育を実施し、「奥出雲町への愛着を持ち、自らふるさとの未来を切り開こうとする子ども」の育成に取り組んでいく。
- 関係人口の拡大を図るため、活動をピックアップし、各地区が主体となり実践する、関係人口（奥出雲ファン）の可視化ができるシステムを構築する。
- 2030年かみあり国民スポーツ大会に向け、住民の機運を高めるとともに選手や指導者の育成に取り組んでいく。
- AIスポーツカメラの導入により、スポーツが合宿を誘致し、外貨を稼ぐとともに「ホッケーのまち 奥出雲町」を更にPRしていく。

【安心して暮らすことができるまち】

- 小さな拠点づくりは、引き続き各地区伴走支援をしながら、生活支援体制整備を活用したお助け隊による高齢者の困りごと支援等も取り入れながら各地区のサポートを関係機関と連携して行っていく。また、布勢・横田地区については、地域包括支援センター（高齢者生活支援）と連携をとりながら、地域課題を把握しつつ、全地区で小さな拠点づくりの取組が進むよう働きかけていく。
- 亀嵩や三沢等の小さな拠点で実施している買い物や交通支援については、モデルケースとして全町的に取り組んでいけるよう他の組織にも働きかけを行っていく。
- 助け合い除雪について、近年は降雪量が減っており、申請数が少なくなっているが、引き続き自治会に協力をお願いするほか、小さな拠点等の新たな組織への協力依頼も行っていく。
- TV電話端末を使用した見守りサービスを終了し、新たな見守りネットワークを構築する。令和5年度中に新たな見守りサービスについて運用方針を決定する。
- 高齢者生活交通・サポート事業は、事業内容や利用方法を検討し、利用者のニーズに合わせた見直しを図る。
- 救急・訪問医療等の地域医療を守るため、在宅当番医制、第二次救急医療体制、訪問診療体制を維持できる支援していく。
- 介護人材の確保については、「人材確保奨励金」をUIターン者に限定せず、対象を拡大し、医療介護ネットワークと連携しながら、実効的な施策を検討していく。
- 医療人材の確保については、島根県立大学等との協定に基づき、インターンシップの積極的に受入れにより、人材の確保につなげていく。また、医療人材に対する大学の地域枠推薦にも引き続き取り組んでいく。
- 令和5年度に地域にとって望ましい地域旅客サービスの姿を明らかにする「地域公共交通計画」を策定し、地域の実情にあった持続可能な交通体系を検討する。
- 既存の町営住宅・定住住宅の見直し、空き家等の活用を図るほか、定住のきっかけを気軽に図れるよう、お試し住宅の増設等を進めていく。また、若者世帯の定着に向け、旧稲原団地用地を敷地造成して分譲する（令和5年度測量設計、令和6年度造成、分譲）。
- 更なる防災意識の向上を図り、防災士を中心とした地域防災自主組織による防災訓練や小さな拠点づくりと連携した研修を実施していく。
- 消防団OB等に働きかけ、機能別消防団員の確保に努めるほか、引き続き消防団活動の見直し等を実施して団員の負担を減らし、入団者の確保につなげる。

今後の
取組方針

- 計画の実現にむけて	⑩官民協働による持続可能なまちづくり	70.0	(2)民間活力の導入	C	政策企画課
			(3)住民と協働のまちづくり	A	総務課
			(4)住民に開かれた行政運営	A	総務課
			(5)効果的な行財政運営	A	財政課
			(1)行政サービスの向上と効率化	C	総務課、町民課
	⑪スマートタウン構想・自治体DXの推進	50.0	(2)情報通信基盤の整備	C	総務課
			(3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進	A	
			(3)情報サービスの充実	D	

各種意見・評価

評価委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・土地の相続について、境界が分からない、場所が分からないとの相談が増えている。土地に懸念があると、住んでいる人は不安を感じ、転出につながる可能性がある。デジタル化の推進や早急な地籍調査の実施により、安心して暮らせる基盤づくりをして欲しい。 ・奥出雲町は、昔から情報発信が下手だと感じている。テレビドラマ「VIVANT」は、謎めいた雰囲気や武器にしたから盛り上がったと思う。一般的な情報発信ではなく、ミステリアスな雰囲気も漂わせるなど、他の行政とは違う方法を用いて発信することで興味を引くことができると思う。 ・空き家が見つからないまま老朽化し、放置されている。落下物等があれば、自治会で対応しているが今後どのように対応すべきか悩んでいる。対応等に相談や協力をお願いしたい。また、空き家の除却等の補助金創設を検討して欲しい。 ・小さな拠点づくりの活動で健康についてよく話すが、健康寿命で日本一を目指すこともまちづくりの大切な項目になると思うので、取り入れて欲しい。 ・介護や医療の人材確保奨励金の効果や改善等について、事業所と行政が責任をもって検討する必要がある。現場はかなり厳しい状態である。 ・奥出雲病院と健康福祉課と連携し、災害と感染症に対するBCPの取組をモデル事業として実施しているが、計画から災害に対する対策を感じなかった。福祉避難所が災害時に十分な対応ができるか不安である。 ・高齢者見守りシステムの改善について、独居や高齢者夫婦が町内にはたくさんいるので、一人でも孤独死がなくなるよう検討して欲しい。

横断的 取組目標 1	多様な人材の活躍を推進する		
担当課	総務課、政策企画課、町民課、環境政策課	総合評価平均	66.7
前年度の 取組の 成果と課題	<p>【多様な人々の活躍】</p> <p>●住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、町内7地区で小さな拠点づくりの取り組みが進んでいる。令和4年度も「地域円卓会議」を4回開催して、各地区の実践活動の取組や成果、来期に取り組むこと等を確認できた。横田地区においては、「地域いきいき活動支援補助金」を活用し、防災研修会、高齢者サロンを実施され、機運が徐々に高まってきている。</p> <p>●きりぎり輝く地域づくり事業は、9団体(うち新規3団体)が採択され、すべての団体が事業を実施し、文化、交流、環境、教育と多岐にわたり、各地域で活動が行われた。今後、事業継続については、自主財源の確保等、補助金に頼らない体制への移行を支援する必要がある。</p> <p>●第三次奥出雲町男女共同参画計画を令和4年3月に策定したが、政策・方針決定の場や地域活動における女性の参画率は伸び悩んでおり、あらゆる分野で女性が参画できる仕組み作りが必要である。</p> <p>●総合計画に町民意見を反映させるため、町内9カ所で意見交換会を実施した。引き続き意見交換会等による広聴場を作って行く。</p> <p>●町の情報発信については、令和5年3月31日時点でインスタグラムフォロワー4,928人、フェイスブックフォロワー1,762人。本町の認知度を高めるため、SNSにまちの魅力伝える投稿を約80回行った。町の公式ラインは、年度途中で運用を開始し、町民向け発信にとどまっている。</p> <p>●情報を一元化して発信するため、SDGsロゴを使用した様式に統一し、庁舎内全体でプレスリリースできる仕組みを構築した。</p>		
今後の 取組方針	<p>【多様な人々の活躍】</p> <p>●小さな拠点づくりは、引き続き各地区伴走支援をしながら、生活支援体制整備を活用したお助け隊による高齢者の困りごと支援等も取り入れながら各地区のサポートを関係機関と連携して行っていく。また、布勢・横田地区については、地域包括支援センター（高齢者生活支援）と連携をとりながら、地域課題を把握しつつ、全地区で小さな拠点づくりの取組が進むよう働きかけていく。</p> <p>●きりぎり輝く地域づくり事業は、更なる新規団体の掘り起しを行うため、事業活動の広報を積極的に行う。また、協定を締結した学校や企業等との連携した事業にも活用できるよう見直しを行って行く。</p> <p>●令和5年度は、子どもたちのまちづくりへのチャレンジを応援するため、「未来に輝け！まちづくりチャレンジ事業」を新たに創設し、実施している。</p> <p>●政策・方針決定の場への女性の参画を拡大するため、審議会等への積極的な女性の参画や小さな拠点等の地域組織において女性が参加しやすい仕組み作りを進める。</p> <p>●更なる町の情報発信のため、魅力発信講座等を開催し、奥出雲をお勧めする人、奥出雲に愛着を持つ人、奥出雲のために力を出したいという人を増やすとともに、誰もが奥出雲のコトを発信できるよう応援サポーター制度の仕組みを検討していく。</p> <p>●SNSでの投稿については、庁舎内で若手を中心にプロジェクトチームをつくり、定期的にSNSで情報発信できる仕組みを構築するとともに、フォロワーを増やすため、チームでSNS新規企画を立案し実施する。</p> <p>●総合計画に基づき、「奥出雲創生」のため、行政や議会だけでなく、町民、企業、関係団体、奥出雲町を応援していたく全ての皆様と総力戦でまちづくりに取り組んでいく。多くの皆様に奥出雲町のまちづくりに参画してもらえるよう、SNS等を通じてPRをしていくとともに、効果的な制度、補助金の創設や見直しを行って行く。</p> <p>●住民参画のまちづくりとして若い世代と行政が一体となり対話し、奥出雲の未来について考える「おおいずも未来会議」をスタートさせ、「おおいずもの未来をつくるシティプロモーション事業」としてブランドメッセージづくりを行い、地域への愛着やシビックプライド（地域貢献意識）の醸成を図っていく。</p> <p>●広聴の機会の充実を図るため、引き続き町政意見交換会を実施し、町民の皆様のご意見を伺う機会を作って行く。</p> <p>●大学、民間企業等と協定を締結により、町の課題解決、魅力向上、人材・物資不足の解消等に取り組んでいくほか、奥出雲町をフィールドとした研究などにより、奥出雲町とかがわってもらい、人流を活発化させる。</p> <p>●町内に在住する外国人と町内小中学校、地域住民との交流事業を行い、多文化共生を積極的に図っていく。</p>		

理念	基本目標	基本目標評価 (平均点)	取組	担当課 評価	施策 担当課 (R5.4時点)	
3	安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり	50.0	⑩持続可能なコミュニティがあるまち	(1)小さな拠点づくりの推進	A	政策企画課
			(2)未来を担う人づくり	B		
			(3)価値を生み出すまちづくり	A		
			(4)奥出雲町のブランドイメージの構築	D		
			(5)官民協働の戦略的シティプロモーションの実施	C		
-	計画の実現にむけて	100.0	⑪官民協働による持続可能なまちづくり	(1)地方創生SDGsの推進	D	環境政策課
				(2)民間活力の導入	C	政策企画課
				(3)住民と協働のまちづくり	A	総務課
				(4)住民に開かれた行政運営	A	総務課
				(5)効果的な行財政運営	A	財政課
-	スマートタウン構想・自治体DXの推進	50.0	⑫	(1)行政サービスの向上と効率化	C	総務課、町民課
				(2)情報通信基盤の整備	C	総務課
				(3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進	A	
				(3)情報サービスの充実	D	

各種意見・評価

評価委員会
<p>・ヨーロッパなど諸外国では、少子化問題に対し、子育ては男女平等である考え方を定着させることにより、子どもの数を増やしていった。行政が意識改革を促し、土壌作りを進めることで若い人が住みたいと思う町になると思う。</p> <p>・小さな拠点づくりでは、新しい組織を立ち上げるだけでなく、今ある組織や取組を活かして、住民に協力してもらえる取組を検討していく。</p>

横断的 取組目標 2	新しい時代の流れを力にする		
担当課	総務課、政策企画課、環境政策課	総合評価平均	60.0
前年度の 取組の 成果と課題	<p>【地域におけるSociety5.0の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国の電子申請「びったりサービス」を活用したオンライン手続きが可能となるよう整備したほか、マイナポータルを通じた転入・転出ワンストップサービスを導入することで行政サービスの向上と効率化を図った。今後より多くの手続きをオンライン化することでサービスの拡充を図っていく。 ●高齢者がデジタルサービスを利用できるよう支援を行っていくため、公民館事業として高齢者向けのスマホ教室を開催し、デジタル機器に慣れてもらう機会を作ることができた。 ●Society5.0を推進し、スマートタウン構想・自治体DXの取り組みを行うためには、情報通信基盤の整備、特にインターネットについては大容量かつ安定したサービスを提供することが急務であるため、令和元年度から令和4年度にかけてケーブルテレビ利用者宅に設置している機器の更新を実施したほか、安定したインターネット利用が可能となるための設定変更を一部地区において対応した。 ●事業者や住民ニーズに対応して、安定したインターネットサービス（1ギガプラン）の提供を開始した。 ●令和5年度からのコンビニ交付に向けて、自治体基盤クラウドシステムへの申込みなど準備を進めた。 <p>【地方創生SDGsの実現など持続可能なまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SDGsの推進（目的である誰ひとり取り残さない持続可能な社会を目指し、17の目標の達成）により地域の課題解決が必要である。 ●SDGsに係る施策の推進には、国、県等の補助金やデジタル田園都市構想交付金など様々な財源を確保する必要がある。 		
今後の 取組方針	<p>【地域におけるSociety5.0の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続きケーブルテレビ施設の機器更新については、運営状況を考慮しながら必要な対応を実施し、大容量かつ安定したインターネットが利用できるよう、高度かつ持続可能な情報通信基盤の整備を進めていく。 ●スマートタウン構想・自治体DXを推進するため、国が進める施策についての検討も行いつつ、奥出雲町DX推進計画に基づいて地域の課題解決や魅力発信につながるデジタルを活用した取り組み（AIスポーツカメラ、地域通貨等）を行い、地域活性化に効果がある施策が実施できるよう取り組む。 ●誰もがデジタル化から取り残されないために、高齢者等の情報リテラシー向上について一層推進していく。 ●町公式ラインの機能拡張や町ホームページをより見やすく改修することでより細やかな情報提供を進めていく。 ●町内41箇所のフリーWiFiを1ギガ対応にし、高速通信環境を利用して仕事や学習に活用できる環境を作る。 <p>【地方創生SDGsの実現など持続可能なまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和4年度(第2次補正予算)において、奥出雲町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画づくり支援事業に採択され、計画の策定を進めている。 ●令和5年6月9日「奥出雲町脱炭素宣言」を行い、脱炭素のまちづくりを取組を進めていく。 ●幼少期からのSDGsへの理解、子どもたちが木に触れることで「生きる力」を身につけてもらうため、協定を締結している島根大学と環境教育(木育)を進めていく。 ●脱炭素のまちづくりを進めていくため、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金(重点対策加速化事業)を申請し採択を目指し、再エネ設備等の導入を進める。 		

理念	基本目標	基本目標評価 (平均点)	取組	担当課 評価	施策 担当課 (R5.4時点)
-	計画の実現にむけて	70.0	(1) 地方創生SDGsの推進	D	環境政策課
			(2) 民間活力の導入	C	政策企画課
			(3) 住民と協働のまちづくり	A	総務課
			(4) 住民に開かれた行政運営	A	総務課
			(5) 効果的な行財政運営	A	財政課
		50.0	(1) 行政サービスの向上と効率化	C	総務課、町民課
			(2) 情報通信基盤の整備	C	総務課
			(3) デジタル化社会に対する人材育成等の推進	A	
			(3) 情報サービスの充実	D	

各種意見・評価

評価委員会
<p>・デジタル化については、高齢者がデジタルに慣れるていくことが重要である。スマホ教室など対策をしっかりとっていないと、高齢者は生活面や若い世代との交流などでつまずくと思われる。</p>